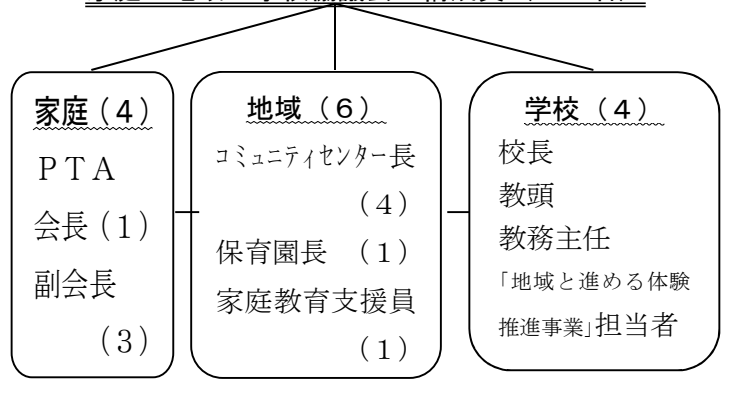


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

※「家庭・地域・学校協議会」の組織図

家庭・地域・学校協議会 構成員（14名）



※地域コーディネーター（4名）

- ・東十郷コミュニティセンター長
- ・大関コミュニティセンター長
- ・兵庫コミュニティセンター長
- ・木部コミュニティセンター長

(2) 協議会の内容

※開催回数 3回

※開催日程・協議内容

第1回（6月7日）

- ・協議会の活動内容、活動計画について

- ・スクールプランについて

- ・地域と進める体験推進事業について

第2回（11月22日）

- ・学校教育活動について

- ・地域と進める体験推進事業について

- ・学校評価について

（評価シート等の検討）

第3回（2月21日）

- ・学校評価について

- ・今年度の振り返り

- ・来年度に向けて

(3) 協議会における成果と課題

本年度は協議会を学校公開日に開催するとともに、学校行事にも積極的に参加して頂いた。委員の方に、日々の教育活動の成果を理解して頂くことが出来、また、多くの学校行事等について、委員の方々から、お誉めの言葉を頂き、来年度に向けて大きな力を得ることができた。同時に、生徒の様子などから学校がかかえる課題についても理解・共有して頂く良い機会となった。課題としては、来年度の地域コーディネーターの活動内容について、検討する必要が挙げられた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域に根ざした活動に、生徒が自ら考え、工夫しながら関わっていくことを通して、自分たちの住む町や市、地元の福井県に誇りや愛着を持ち、未来に向かって歩いていこうとする意欲を育てる。また、地域コーディネーター等、地域に住む方々の協力を得ながら活動を進めていくことを通して、人と人とのつながりの大切さを実感させ、温かい人間関係を築こうとする心情を育てる。

(2) 活動の実際

① フラワーロード大作戦（花いっぱい運動）

【全学年・美化委員会・ボランティア委員会】

学校生活の環境を整え、落ち着いた学校生活を送るため、夏休みに生徒の手で正面およびグラウンドの花壇や生徒玄関前のプランターを整備する活動を行った。花壇を整備することで、



(様式3)

多くの来客や地域の人にも楽しんでもらえると考えた。

1学期の委員会の時間にグラウンドの花壇の草刈りを行い、夏休みの奉仕活動の際に生徒の手で苗を植えた。定期的に草むしりも行い、9月から11月までは写真のような美しい花壇となり、見る者の心を和ませてくれた。

また、生徒玄関前の花壇やプランターはボランティア委員会が定期的に手入れをし、学校中を花いっぱいにする事ができた。



②地区活動【全学年・地区生徒会】

今年度も夏休みを中心に、清掃活動や夏祭りなど、地区ごとの行事に主体的に参加する活動を行った。地区活動について、PTA地区委員の方など大人が中心となって計画を立てるのではなく、生徒が立案し、各地区委員や区長と交渉しながら、生徒が主体となって地区活動を行うようにした。

6月に地区生徒会を開き、地区長を中心に生徒同士で活動内容等について話し合いをした。その後、地区長がPTA地区委員や区長に提案し、詳細な計画を立てた。7月には計画の最終確認や役割分担等を行い、夏休みを中心に各地区で活動を行った。主な活動は以下の通りである。

- 地区夏祭りの運営・準備・後片付けの協力
- 公民館や集落センターの清掃
- バス停や地区の道路の清掃・ゴミ拾い・ゴミの分別
- 神社や公園の除草作業

活動の様子をまとめた掲示物を文化祭で掲示し、来校された保護者や地域の方にも見ていただいた。生徒の感想にも充実感や達成感を感じているものが多く、生徒にとっても地域にとっても価値のある活動だったということがよく分かった。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

文化祭で、生徒とともに模擬店を運営する。今年度は綿菓子とポップコーン販売を行った。



(4) 特に工夫した事項

地域の方々等との交流を図るため、地域単位での活動を実施した。また、フラワーロード大作戦では、花壇の整備の実施を、PTA奉仕作業と同じ日に行い、多くの生徒や保護者とともに作業ができた。

(5) 成果と課題

地区活動の実施により、生徒が地域の様子を知るとともに、地域貢献の満足感を得ることができた。また、十分に話し合っ計画を立てている様子が見られた。文化祭に向けた掲示物作成により、地域への関わり等を再確認できた。今年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、“当てはまる”と回答した全国の割合が21.0%に対して、本校は48.4%と高い数値を示している。

昨年度課題として挙がっていた生徒数が少ない地区についても、近隣の地区と共同で地区活動を行うなど、できる範囲の活動を行うことができた。3年間取り組んできた「地域と進める体験推進事業」での経験を生かし、来年度以降も地区活動やフラワーロード大作戦など、生徒が主体的に参加できるような活動を継続して進めていきたい。